



B - S T Y L E

VOL.15

Winter season

《 暮らし方のコンセプトメッセージ 》

Message from harmony-life

Breeze.....四季のうつりかわりを感じる風の音、風の温度、風の道。
 Breath.....心も体も深呼吸できる健康的な場所、リラクセスの時間。
 Beauty.....日常の中で触れ、愛おしみ、感性を磨く不変の美。
 Built-in.....機能性と暮らしやすさを考えたオーダーメイドの設備。

10月20日、台風23号が残した爪跡は私達に大きな教訓を残し、価値観・人生観を一変せました。2005年という新たな年を目前に控え、今一度「生き方・暮らし方」について再考する事が必要な時なのかもしれません。秋号は台風の影響で休刊しましたが、今回は「新しいライフスタイルのカタチ」をテーマに考えてみました。

さて夏号で本物・良いものが売れ始めているという記事を掲載しましたが、これはまさに日本人のライフスタイルが本質的に変化しはじめたという事の表れなのです。ライフスタイルという言葉の意味は本来「人生観・生き方」なのですが、昨今は暮らし方の表現方法として趣味であるとか、インテリアであるとか自分の余暇の楽しみ方なんかをカタチにすることもライフスタイルデザインと呼ばれるようになってきました。タレントのちほるさんやモデル兼デザイナーの雅姫さんの暮らし方を書いた本が若いミセスを中心に人気が出ていることから、ライフスタイルデザイン



ンがいかに暮らしの中に溶け込んできているかわかります。ちほるさんや雅姫さんに共通するのは「スローライフ」というキーワードですが、スローライフという言葉自体がまさに今多くの女性を中心に受け入れられている暮らし方・ライフスタイルのカタチなのです。

ライフスタイルデザインはスローライフに代表されるように「どんな考え方・価値観でどんな風に暮すか?」「その暮らしを実現させる為にはどんな空間と時間の使い方がいいのか?」ということをデザインしていく作業であり、考え方や価値観の数だけデザインの数も存在します。そのスタイルの一例を、たとえば「ちほるスタイル」というように表現されたりしています。ハーモニーライフの提唱するB-STYLEもその一例の表現なのです。そうした中、昨今のデザインブームの影響もあり、デザイナーズマンションとかデザイナーズ住宅などが台頭し、名前だけの「デザイン化現象」が起きているのも事実で、デザイン

新しいライフスタイルのカタチ

をつければ売れる軽薄な時代になりつつあるのも事実です。デザインすることの重要性が日本でも認められ、建築やプロダクトなどのデザイナーを目指す若者が増えてきたのは嬉しいことなのですが、ともすればカタチの中身の伴わないデザイン競争になり、使う人の価値観を形にするというデザイン本来の使命が失われ、デザイナーの価値観を自己主張的に押し付けるといふ事にもなりかねない状況です。アパレルや雑貨などのせいぜい数万円程度のものならそれでもいいのですが、何千万円もする住宅にまで名前だけのデザイン化現象が起きているにはある意味危機感も感じます。いよいよ消費者自身に本物を見分ける眼力が必要になってきたのではないのでしょうか。

10月に、東京で開催された東京デザイナーズプロック(TDB)というビッグイベントに行ってきたのですが、そこでは最先端を模索する新進デザイナー作品やデザイナーの本質を迫る展示等が東京の各地でゲリラ的に開催され、まさにデザイン革命が日本で始まるうとしている様相を実感してきました。この中で共通していたのは本物志向であること、コンセプト

デザイン化現象からの脱皮

が非常に明確である事です。また、そうした最先端のデザインのバックボーンにエコロジイイズムとか地球の視野で「21世紀に人類はどうあるべきか?」「デザインはどこまで地球に貢献できるのか?」という問いが発せられていたような気がします。やはりこれからの時代は全ての人々が、自分らしく生きる事の大切さと、人類は地球に生かされている、全ての自然は循環している、という事実を認識し、地球と人類の調和を全ての基本に置かなければいけない幸せにはなれないという事なのでしょう。

新しいライフスタイルのカタチというのはこの「調和」というキーワードを暮らしのカタチにするということだと思えます。つまり「エコロジーであること」「本物・本質的であること」そしてなにより「自分らしく暮らしを楽しむこと」この3つの「こと」を大切に、自分のライフスタイルを確立することであり、そのライフスタイルを名前だけのデザイン化現象に惑わされることなく、リアルデザインしていくことではないでしょうか?又、そのためにはデザインやモノの本質を見極める目を養うことも大切なのです。

東京通信 VOL.15

倉野 路凡(くらのろはん)

久しぶりにトラッドショップめぐりを楽しむ日々。先日出来上がったのがKENTのシャツ。パターンオーダーしたやつが出来上がったのだ。素材はピンオックスで、色はブルーとピンクの2枚型はもちろんボタンダウンだ。とってもプレッピーな選択でしょ。

近頃巷に回っているイタリアっぽいハイカラーのボタンダウンではなく、昔ながらの衿腰の高さでボタンの厚みも普通。この普通という感覚はトラッド通でないとうわかりにくい。今回はタッターソール柄で追加注文しようと考えている。KENT SHOP 青山は、ブルックスブラザーズの斜め前のビルの3階。青山通りにある。

さて、そこから表参道に出で、ぶらぶら歩くとポール・スチュアート青山店がある。昔からある石造りのお店だ。他に銀座店と神戸店があり、百貨店に入っているショップとは経営が違うので注意したい。一歩中に入るといい意味での緊張感が漂い、靴コーナー、ニットコーナーはため息が出るほど上質な商品を置いている。2階がスーツコーナーだ。とくにこのお店はウィンドウディスプレイが素晴らしい!で、おもわずパチリと撮ってしまいました。クリスマス前のこの季節のトラッドショップめぐりは、じつに楽しいのである。



KENT SHOP 青山



ポール・スチュアート青山店

倉野路凡(くらのろはん)

ファッションライター、コラムニスト

1969年生まれ。宮津市出身。モノマガジン、東京ウォーカー、週刊SPA!、ウオッチャーゴ(節約時計術/連載)、メモ男の部屋(ろはんの小引出し/連載)などライターとして活躍